

# こだわり行動のある人への 安心できる環境づくり ～iPadを用いたアプローチ～



社会福祉法人光朔会 オリンピア住吉  
藤原 一秀  
<http://www.olympia.or.jp/>

# オリンピックのあゆみ

1950年 オリンピア幼稚園 開園

1995年 阪神淡路大震災により  
オリンピック幼稚園 閉園

1995年 社会福祉法人 光朔会 創設

1996年 特別養護老人ホーム オリンピア 開所

『全ての人が希望を持ってその人らしく

暮らせるような社会作り』を目指します。

# オリンピックのあゆみ

- |       |     |               |           |
|-------|-----|---------------|-----------|
| 1996年 | 10月 | 特別養護老人ホーム     | オリンピック    |
| 2002年 | 10月 | グループホーム       | オリンピック灘   |
| 2004年 | 8月  | 高齢者総合福祉施設     | オリンピック兵庫  |
| 2005年 | 5月  | オリンピック都保育園    |           |
| 2010年 | 4月  | オリンピック神戸北保育園  |           |
| 2010年 | 6月  | 高齢者総合福祉施設     | オリンピック神戸西 |
| 2012年 | 4月  | 神戸市立 都児童館     |           |
| 2012年 | 4月  | 障害者就労支援センター   | オリンピック岩屋  |
| 2013年 | 4月  | 発達障害者サポートセンター | オリンピック住吉  |
| 2014年 | 7月  | サービス付高齢者向け住宅  | オリンピック鶴甲  |

# Aさん

- 自閉症
- 23歳 女性
- 高校卒業後、B事業所をいくつか通所
- 22歳からオリンピア住吉へ通所
- 通所開始当初は週4日  
昨年6月～8月は長期欠席  
今年2月頃から週5日通所できるようになった

# Aさんの様子

- 不安感がとても強く、日常生活に支障が出るほど頻繁に同じ質問を繰り返す。
- 自宅から電話で質問することも多く、相手が不在の場合は、次の行動に移れなくなり、朝なら施設を遅刻や欠席する日もある。
- 作業中も質問が気になって集中が続きにくい。

# Aさんの様子

- 相手が期待した答えを言ってくれなかった場合、特に不安になり相手を変えて同じ質問をすることもある
- 作業中の質問の頻度が上がると、周囲とトラブルになることもある



# 主な質問内容 1

- ○○先生と□□先生（どちらも中学の先生）は、「黒色と白色のネクタイ」と、「5本指の靴下」は持っていますか？
- △△さん（以前通所していた施設の職員）は「してらっしゃる」とか、「しています」とか（のことばを）使いますか？
- 関東・東北の人に、金髪の人はいいますか？

# 主な回答 1

- 「持っていますか？」 「持っています」
- 「使いますか？」 「使います」
- 「していますか？」 「しています」

基本的に肯定する答でAさんは納得



## 主な質問内容 2

- 怒ってますか？
- 今日一日でイライラしたことは？
- さっき一瞬黙りましたが、怒ったんですか？
- 今日、私に何か注意をしましたか？
- さっきどうして声が大きかったのですか？

# 答えるとき、こころがけたこと

- 質問が始まった時は、できるだけ答えて本人が安定するように心がけた。
- どうしても答えることができない場合は、  
「必ず理由を説明する」  
「いつなら話ができるか予定を伝える」
- 職員が怒っているか気にかける質問に対しては、  
「怒っていません。ゆっくり説明をしています」  
「しっかりわかってもらうために少し声を大きく出しています」など、ことばの説明を付ける。

# なぜ質問するのか？

～本人との面談から～

- とにかく、気になったら頭から離れない
  - 決まった答えをしてくれると安心する
- そして、

「迷惑をかけているのはわかっている」

でも、

「怒られたくない」

「みんなと話がしたい」

「みんなと仲良くしたい」

同じ答えが返ってくると、関わられた安心感が持てたのではないか？

# なぜ質問するのか？

～本人との面談から～

- とにかく、気になったら頭から離れない
  - 決まった答えをしてくれると安心する
- そして、

「迷惑をかけているのはわかっている」

でも、

「怒られたくない」

「みんなと話がしたい」

「みんなと仲良くしたい」

関わりたいけれど、  
関わり方がわからない  
のではないかと？

- 質問に依存？
- 他に方法を持ってないでいる？



- 日常生活に支障が出る状態  
作業に集中できない「今聞きたい」  
周囲との関係がうまくいかなくなる  
「迷惑をかけているけどやめられない」  
休んだり、遅刻したり「切り替えられない」



- 安心できる方法はないか？
- 他の手段を増やしていけないか？

- Aさんも安心できて、周囲も許容できる方法に変えていけないか？

質問していい時間の明確化

定番質問に対する代理回答の試み

相手に答えてもらいやすい質問内容を考える

# 1: 質問していい時間の明確化



職員のスケジュールをあらかじめ入力し、質問しても大丈夫な時間を明確化

オンラインで、いつでも確認、修正もすぐ反映

# 1: 質問していい時間の明確化

- 答えてもらえる時間が明確になったので、見通しが安心感につながったのか、スタート直後からルールを守ることができた。

- それまでは  
「質問があります」  
「**次の休憩**の時、質問に答えます」  
「今答えてもらわないと落ち着きません」



あっさり次の休憩まで待ってくれるようになった



## 2: 定番質問に対する代理回答の試み

- 納得できる答えを聞ければ安心できるのであれば、Aさんのペースで確認できる方法も持てればいいのではないか？
- iPadを使った確認で、納得できるか？
  - 代替えの方法が持てれば、いつでも安心して確認できるのではないか？
  - こだわりを否定するのではなく、許容できる方法に変えることで、周囲との関係も安定していかないか？
- 3つの方法で試みた

## 2: 定番質問に対する代理回答の試み

a: **文字列**による回答



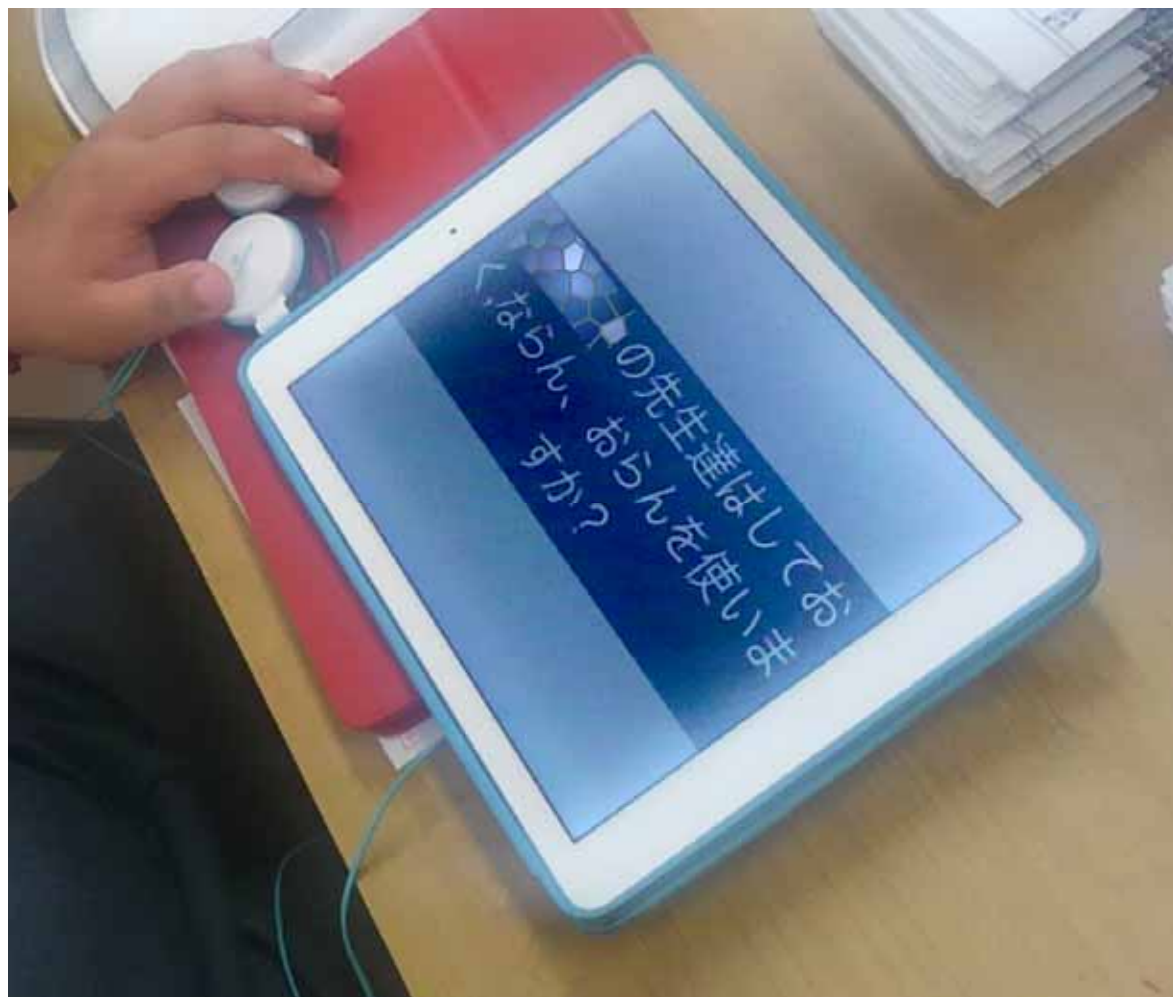
b: **音 声**による回答



c: **動 画**による回答

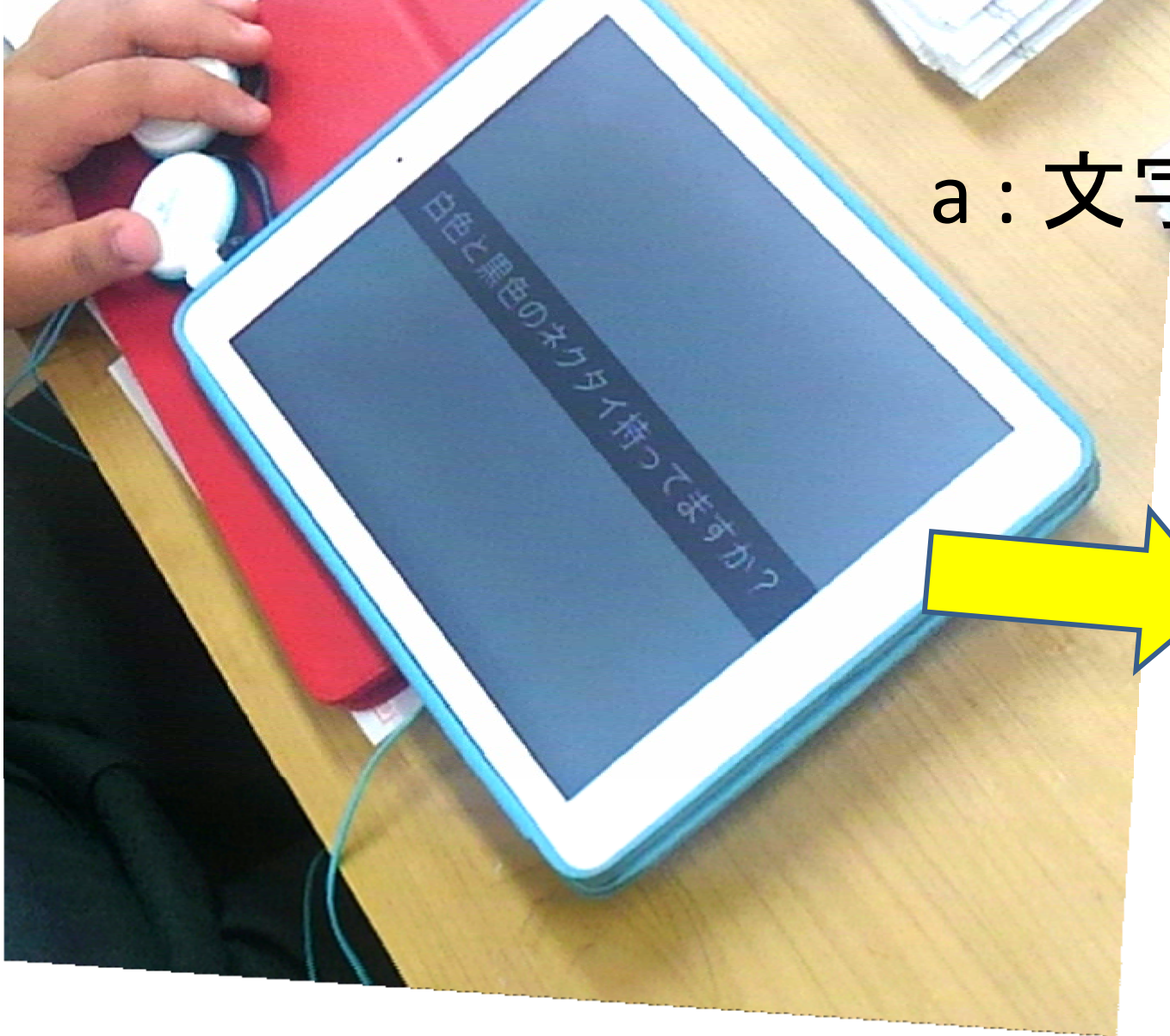


## a : 文字列による回答



文字で表示された質問を、スライドすると定番回答が表示される

a : 文字列による回答



- 質問の文字を見ただけで、「**恥ずかしい**」と、下を向き、まったく先に進もうとしなかった。



## b: 音声による回答



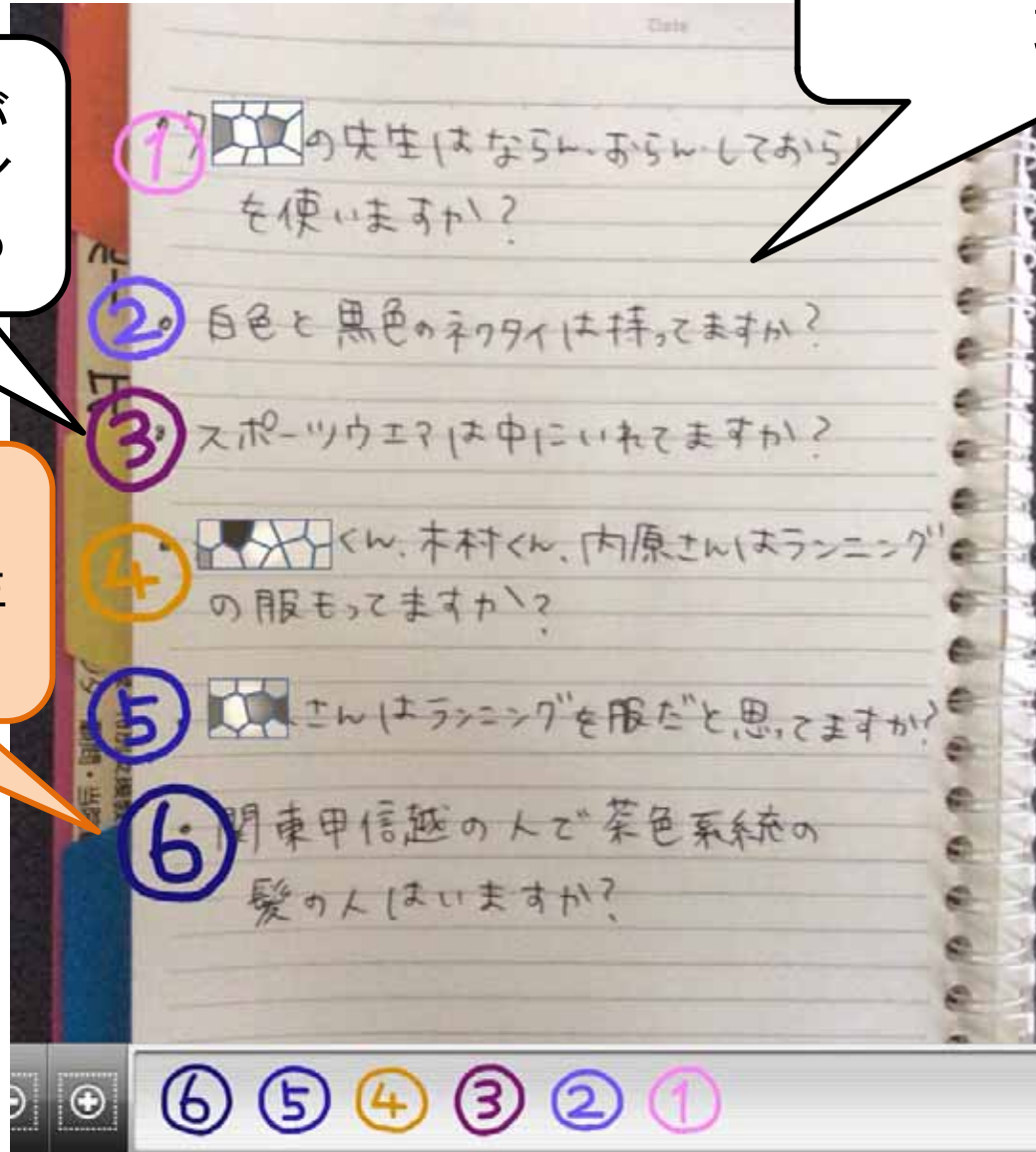
- 手書きされた質問に付いたアイコンをタッチすると、音声でその定番回答が再生される。

# b: 音声による回答

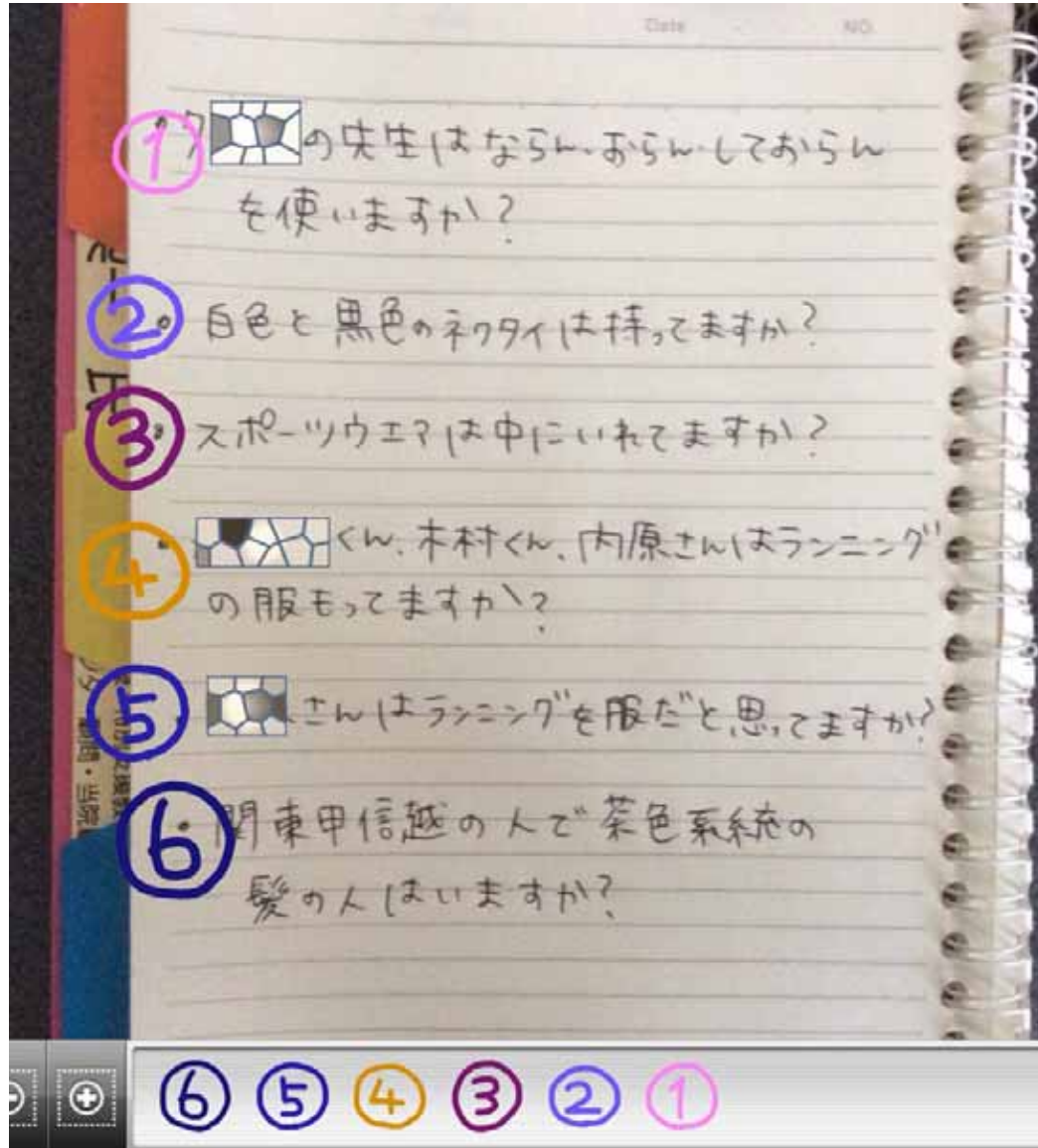
1: 質問が書かれた画像を取り込む

2: 回答の音声  
が紐付けされたアイコンを貼り付ける

3: ボタンを押すと  
質問の答えが再生される



## b: 音声による回答



- 非常に興味を持ち、質問を黙読しながら、回答を順次聞いていた。
- 翌日「答えを録音して下さい」と、質問を自宅で手書きしてきた。

- 休憩時間に自分で繰り返し確認する様子が見られた。
- 新しい質問を入れて、10問程度の質問の答えを録音してもらって安心した様子だった。



- 職員への質問の電話は減った
- 作業中の質問はかなり減った



- 遅刻・欠席が減った。
- 作業時間の集中が継続されるようになった。



## C: 動画による回答



- ビデオのタイトルを質問に
- 再生すると職員が答える映像が再生

## c: 動画による回答

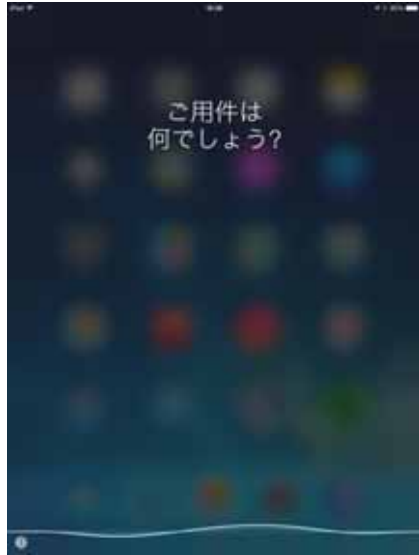


大爆笑して見ていたが、その後繰り返し見る様子はなかった。

# 代理回答の試みから

- 自分が聞きたいときに、聞きたい答えが聞けると言うのは安心感につながった様子だった。
- テキストに音声をつける方法は、現在も本人にとって有効な手段として継続している。
- 元々相手が迷惑しているのに、やめられず悩んでいたが、代理回答手段を持てたことで、相手に負担を強いずに自分の思いも達成できるようになり、ストレスが減った様に思える。
- 「毎日来れるようになった」
- 「続けてがんばれるようになった」

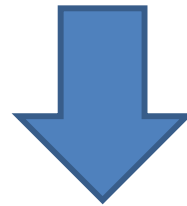
### 3: 質問内容を考える



「Siriが質問に答えてくれるよ」

「Siriに私の質問に答えてほしい」

いつもの質問を投げかけた



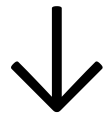
「それは面白い質問ですね」

どんな質問をすれば、Siriは答えてくれるんだろう？

回答不能？

### 3: 質問内容を考える

Siriに答えてもらうためにがんばる



声だけが大きくなる

ちゃんと答えてもらえる質問を考える難しさ

# 今後の見通し

「質問」以外のやりとりの場を、広げていけないか？

自分の考えをまとめたり、伝えたりする体験を重ね、その中で自分の思いを伝えるための表現の方法を学んでいくことで、やりとりの幅を広げていけないか？

今後の見通し

## SNSの活用

- SNS

相手とリアルタイムに対話しない、  
履歴を確認できる、

相手に送って、返事があるまで待てるか？  
相手からの問いかけに答えることができるか？  
→Aさんの姿から検証していく

テキストのやりとりがいいのか？  
画像や音声を含んだやりとりがいいのか？  
→いくつかのSNSアプリを試して、  
Aさんにとって使い易いものを選択していく。

今後の見通し

## 写真日記の活用

- 日記(写真動画つき)を自分で付ける

音声回答用PAINTONEで、撮影、文字・音声入力を経験しているので、日記に応用。

休日に自分で記入、週明けにみんなに見てもらおう。

やりとりの中で、自分の伝えたいことを伝える表現の方法を学んでいく



# B型就労支援事業所としての役割

Aさんの社会参加を支える。

- 見通しと目的意識の持てる日常生活  
「明日の予定がある」「自分の役割がある」
- 所属することの安心感  
「自分の居場所がある」「相談できる場所がある」
- 役割を果たす自分への肯定感  
「最後までがんばれた」「喜んでもらった」
- 人との安定した関わりを持てる喜び  
「聞いてほしい」「話したい」「仲良くしたい」